

平和はどこへ

古堅小学校 四年 伊波 蒔子

今から、六十年前のこと、沖縄でせんそう
していた時のこと、あちこちで、くうしゅう
の音が聞こえます。くうしゅうが始まるまえ、
とつても晴ればれた青ぞらが、だんだん暗
くなってきます。近所の人やけいさつ官は、
「くうしゅうだ、くうしゅうだ、みんなにげ
ろ、早くにげる。」
と外へ出て、私のおばあちゃんが目にしたの
は、じごくでした。くうしゅうのばくだんが
何百こ、何千こと落ちてきて、いっしゅんで
家がやけおちて、せんそうが終わったあとは、
みんなやけのはらで、つみもない人たちが子
ども、お母さん、お父さん、おじいちゃんお
ばあちゃん、二十万の人たちが亡くなってし
まいました。

昔はせんそうをするために鉄の道具が使
用されていてピアノもとられていました。

私のひおばあちゃんは、せんそうのけいけん者です。二十五才くらいのこと、くうしゅうけいほうが町にひびきます。外へでてみるとまるで、じごくにきたような所で、はしつてにげて、後ろをふりかえると、自分の家に、ばくだんが、落ちてくるしゅんかんを見て、こわかったと言っていました。

おばあちゃんは、やんばるへにげてそこへ、アメリカへいが来て、テッポウの音が聞こえたあと、外へ出てみると、まわりに、人たちが、目のまえで亡くなられていました。

私はその話をきいて、せんそうとは、おそろしく、悲しいものです。「はだしのゲン」や「人間をかえして」歌では、「さとうきびばたけ」「ゲットウ」「ぐんか」で歌は、数えきれない数で、いっぱいぐらいの歌を作っていることは人びとたちが、早くこのせんそうが、おわってくれないかなとつたわってきます。せんそうをしている人はとっても、かわ

いそうでくるしそうです。

私のたんじょう日は、六月二十四日です。その前の日は、六月二十三日は、沖縄でせんそうが終った日です。六月二十四日は次の日だから、よろこびの日として、生まれました。せんそうが、終った人たちは、次の日は、とつてもよろこんだと思います。

インドでは、三万人の人が、せんそうにくのをテレビで見ました。じらいや大きなばくだん、ミサイルを見て、びっくりしたのがバス一台分の大きさのばくだんでした。

平和は、どこへいったのか、私たちが、かたっぱしから読谷村中のアメリカ軍のきちをなくしたいです。

せんそうとは、とつてもおそろしく二十万人たちをころすもので、ぜったいにいけな
いと思います。